

平成2年度
教育映画祭優秀作品賞受賞
日本紹介映画コンクール金賞
文部省選定

日本映画ペンクラブ推薦
優秀映画鑑賞会推薦

民俗芸能の心

秩父の夜祭り

——山波の音が聞こえる——



「秩父の夜祭り」讚

—— 高橋秀雄 ——
(文化庁主任文化財調査官)

秩父はメガロポリス東京のオアシス。東京の人々は、ハイキングに、森林浴にと、よく秩父路を辿る。緑影に富んだ山々と谷川の清冽なせせらぎが、喧噪の中に住む人々に安らぎと憩いを与えてくれるからである。

足を踏み入れた秩父路では、名も知らぬ草花のかけにひっそりとたたずむ小さな野の石仏に出逢う。峠には小さな祠が祀られていて、旅する人を迎えてくれる。それらはいずれも秩父の人々の信仰の結晶であり、生きてきたことへの証しでもあった。そして、いまなお秩父の人たちはその前で祭りを続けてきている。人々の平安を願って……。

そんな秩父の自然と生活と歴史をないまぜて織り出される映像はとても美しい。そして、それらはやがて秩父最大の祭りである「秩父夜祭」へと集約される。すさまじいまでの熱気とエネルギーを発散させる屋台の巡行をクライマックスとするこの夜祭りは、寒気厳しい秩父盆地を興奮のるつぼと化する。

やがて祭りが果てる。土地の古老がつぶやく。“星の降るような、輝くこの夜、秩父神社の女神妙見様は、武甲山におわす男神と、1年に1回、お旅所のお花畑で相まみえるのだ。”静謐に戻って、秩父盆地の底に眠るかのようにつなが家主の上で、無数の星が輝きはじめる。秩父の一年が終り、新たな一年がはじまる夜である。

詩情に富んだ秩父を語る映画の誕生を心から喜ぶものである。



武甲山を背景におだやかに広がる秩父盆地



街中で演じられる屋台芝居



山道を花御堂を持って登る子どもたち（花まつり）

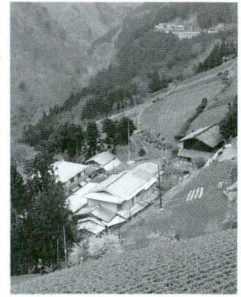


鎌倉時代より続けられている神馬奉納の儀（秩父神社）

「山波の向こう側に」

村山正実（映画監督）

四囲を山また山に囲まれた秩父の盆地。そこは盆地独特の「小宇宙」ともいべき豊かな世界がある。またその土地性ゆえだろうが、近代化の荒波と風化をまぬがれて、たくさんの祭りが今日まで残されてきた。その数は400近いともいわれ、いまでも観光客が誰も訪れない村の人たちだけの祭りも沢山あるという。これらの祭りは、古くは深い信仰に根差したものから、江戸の文化を色濃くのこしたもので、どの祭りも盆地で暮らす人々の日々の平安と幸福を願う心の表れであった。なかでも盆地の行事のすべてを集大成した「秩父夜祭」は、盆地で暮らす人々の年一回のエネルギーの爆発だった。

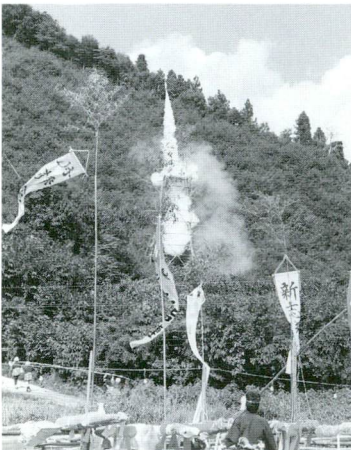


この映画は、かつてこの盆地の主要な産業であった養蚕と、夜祭の背景にある秩父神社の妙見信仰の、二つをキーワードにして、祭りのなかに生きる民俗のこのころを探ってみたものである。

この映画に取り上げた祭と行事は、次の通りである。

- 小正月の繭玉飾り（秩父地方一帯の養蚕農家・1月5日）
- 筒粥の神事（小鹿野町藤倉馬上・1月14、15日）
- 米山薬師の花まつり（吉田町上吉田塚越・5月8日）
- 津谷木のお天狗様・地芝居（小鹿野町下小鹿野木魂神社・5月8日）
- 立沢の虫おくり（皆野町上日野沢立沢・8月17日）
- 吉田の龍勢（吉田町下吉田椋神社・10月5日）
- 門平の獅子舞（皆野町上日野沢門平・10月14日）
- 秩父夜祭（秩父市秩父神社・12月2、3日）

以上、沢山の祭のなかのほんのわずかなものだが、大都市東京からわずか電車で1時間半足らずの、黒々と屏風のように立ちはだかる山波の向こう側に、昔懐かしい、豊かな祭の世界がこんなにも残されているとは……、驚きでした。



戦国時代の狼火から考案されたという「龍勢」は白煙を曳いて上昇する雄大な祭りだ



秩父おろしの底冷える大地に、かくやとばかりに響く屋台ばやしの種古



花まつりの前夜子供達は、花御堂を飾る



秋の獅子舞い



薫風を受けて泳ぐ鯉のぼりも都会でみられない風物詩のひとつ



夏の虫送りも秩父の素朴な行事である

作品名：シリーズ〈民俗芸能の心〉
「秩父の夜祭り」
——山波の音が聞こえる——
(35mm／カラー34分)

企画：財団法人ポーラ伝統文化振興財団
製作協力：株式会社櫻映画社
監修：高橋秀雄

製作スタッフ：制 作・村山和雄
脚本・演出・村山正実
撮 影・村山和雄
山屋恵司
応援撮影・西山東男
山崎堯也
音 楽・長沢勝俊
照 明・本橋俊男
編 集・沼崎梅子
録 音・福島音響
現 像・IMAGICA
語 り・長岡輝子
写真提供・清水武甲

協 力：埼玉県秩父市
秩父市教育委員会
秩父観光協会
小鹿野町
吉田町
皆野町
秩父盆地の人びと

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 **ポーラ** 伝統文化振興財団

<http://www.polaculture.or.jp>

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-2-10 ポーラ第2五反田ビル

TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597